

キーワード | NPO 法人による自主サービスと公的サービスの一体的な提供、コミュニティ喫茶

NPO 法人による自主サービスと公的サービスの一体的提供

大阪府 大阪市

【この事例の特徴】

NPO 法人が主体となり、高齢者支援(配食サービス、グループハウス、移動サービス、介護保険事業、見守りサービス、等)、地域交流支援(コミュニティ喫茶、たすけあい活動、サークル、行事、等)、子育て支援(子育て親子のつどいの広場、幼児一時預かり、等)、障害者支援(総合支援法事業、就労困難者等支援、等)、多様な対象者に対して包括的なサービスを実施している。利用者数は約 600 名、従事者は約 100 名である(2013 年 7 月現在)。

地域概要

総人口:	2,663,467 人
65 歳以上人口:	623,805 人(23.4%)
75 歳以上人口:	298,947 人(11.2%)
要介護要介護認定者数:	140,477 人(22.5%)
地域包括支援センター数:	66 ヲ所
第5期介護保険料:	5,897 円



背景・経緯

【経緯】

- NPO 法人フェリスモンテは、親の介護に悩む 50 代の主婦を中心に活動を開始。悩みを話しあったり、仲間同士で親の介護を交換して実施したりするなどして、お互い助け合って介護をしようという取り組みを開始した。
- 悩みは、移動、食事、排せつ、掃除、娯楽など多様であり、活動内容も、ヘルパー派遣やサロン活動、勉強会など多岐にわたる事業を実施してきた。その後、介護保険法が制定されたときに、ヘルパー派遣やデイサービスが公的サービスとして実施されることになり、それまでの任意団体ではなく、NPO 法人格を取得し、それまで実施してきたサービスを自主サービスと公的サービスとに分けて提供していくこととなった。ヘルパー派遣も介護保険法に基づいて提供するものと、個人の要望によって法人の自主サービスとして提供するものとに分かれ、高齢者が集まる機会も、デイサービスと高齢者サロンとに分かれるかたちとなった。
- 現在では、ヘルパー派遣、デイサービスに加え、ケアプラン事業所、福祉有償運送、配食サービス、コミュニティ喫茶、子育て親子のつどいの広場、就労困難者支援など、様々な事業を実施している。対象も高齢者や要介護者に限定されるものではなく、障害者や子育て世代、就労困難者など、様々である。このいずれも、身近な誰かの困りごとを解決しようという生活者視点の思いが、取り組みのきっかけとなっている。

取り組み内容と方法

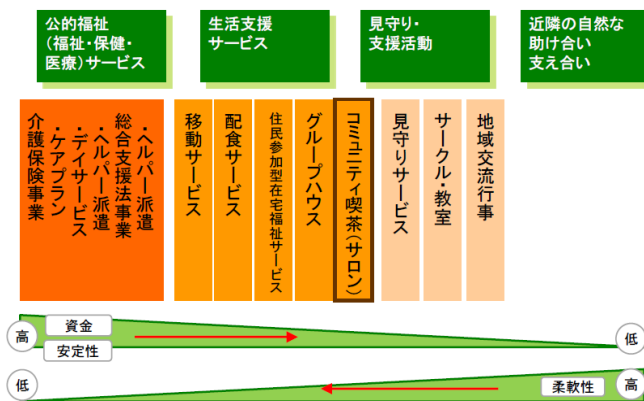
【概要】

- 地域の中にある、漠然としたニーズに対応するのではなく、目の前にいる特定の誰かの困りごとを解決するという姿勢が、フェリスモンテの基本姿勢である。
- 現在では、ヘルパー派遣、デイサービスに加え、ケアプラン事業所、福祉有償運送、配食サービス、コミュニティ喫茶、子育て親支援など、住み慣れた地域で暮らしやすいよう、「お互い様のたすけあい活動」として、種々のサービスを展開してきたが、時代の流れとともに介護保険法や総合支援法が制定され、一部はこれらの法に則った活動にスタイルを変え、法に則らない活動は当法人の自主事業(一部は市町村の委託事業)として活動を継続している。

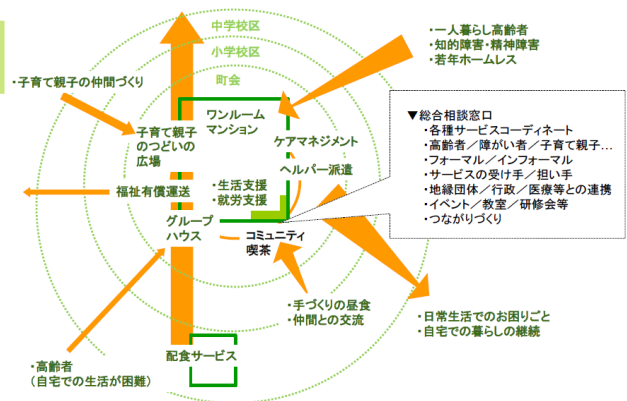
《現在サービス展開している事業》

- ◇ 公的事业…介護保険事業、障害者総合支援法事業、福祉有償運送
- ◇ 委託事業…配食サービス、子育て親子のつどいの広場
- ◇ 自主事業…グループハウス、見守りサービス、たすけあい活動、コミュニティ喫茶、サロン、サークル、各種行事、幼児一時預かり、就労困難者等支援

フェリスモンテの活動内容



コミュニティ喫茶の関わりと各サービス



《事例》

- ◇ Aさん(80歳):約6年前、コミュニティ喫茶開設時、当該地域の町会長として、コミュニティ喫茶開設の応援をしていただいた。Aさんが暮らす市営住宅が建て替えのため、違う地域の市営住宅へ引越し。それを機に地域活動に参加しなくなり、自宅に引きこもりがちになる。妻と二人暮らしだったが、約2年前に妻が緊急入院。Aさんの認知症が急激に進む。当グループハウスで1週間程度のお泊りをし、妻が自宅に復帰したのち、Aさんも自宅へ戻る。配食サービス、ヘルパー派遣、福祉有償運送等を利用しながら自宅での生活を継続する。認知症が進行し、妻への暴力が出るようになり、約半年前に当グループハウスへ転居。慣れ親しんだスタッフやご近所と顔を合わせ、穏やかに暮らしている。

- ◇ Bさん(47歳):約6年前、障害者支援施設での搾取被害に合い、支援機関により、当ワンルームマンションへ転居。配食サービスの配達ボランティアをするようになる。生活管理ができておらず、体調が悪化、マンション隣人に救急通報をしてもらう。それを機に、地域の障害者支援事業所と連携し、ヘルパーが入り、生活支援を行うようになる。また、身体的負担の大きい配達ボランティアから、コミュニティ喫茶のスタッフや、グループハウスの見守りボランティアをするようになる。当ワンルームマンションに暮らす、障害手帳を持った約10名の人たちのリーダー的存在として過ごしている。

取り組みの成果と課題

【成果】

- 現在では、ヘルパー派遣、デイサービスに加え、ケアプラン事業所、福祉有償運送、配食サービス、コミュニティ喫茶、子育て親自主事業が多種にわたって展開できているのは、介護保険事業等での余剰資金を還流させたことによるが、「お互い様のたすけあい活動」を基本理念とし、お互いが助け合い、できない部分はスタッフがお手伝いをするという形式をとっていることも重要である。なかでも「コミュニティ喫茶」を展開したことによる人的交流の効果は大きく、「子育て親子のつどいの広場」を隣地に開設することができ、3世代、4世代の交流の場となるとともに、喫茶の配膳や調理は、軽度の知的障害者や精神障害者の方に担っていただいている。
- 今後も制度や事業では解決できないことからは自主的な活動として実施していくことには変わりはなく、人的支援においても、障害の有無だけではなく、70代、80代の高齢の方をはじめ、20代、30代の若者、元ニート、セクシャルマイノリティ、在日コリアンなど多様な人々が、それぞれの役割を担いながら、その人に応じた働き方をマッチングしつつ、サービスの担い手が受け手になったり、受け手になりながらもできることに取り組んだり“顔の見える関係”での自立支援を大切に、お互い様の助け合いの活動を継続的に実践していく。

【課題】

- 当法人は、「個」を中心に据えたサービス展開をしてきたが、今後「地域包括ケアシステム」が展開された場合、新しく制度に取り込まれる方が存在するとともに現在の制度から漏れる方々も出てくるのが現実であり、単純に制度で人を分断するのではなく、いかに生活の中から出てくるニーズを吸い上げた上で制度化するか、また、サービス展開をどのように変化させていくかは今後、法人としても大きな課題である。

参考 URL、連絡先

- NPO 法人 フェリスモンテ
<http://www.otasha.jp/>
06-6958-0011